

「事業名：福島県浜通り地区環境放射線研修会」

大阪大学 連携市町村：飯舘村、大熊町、双葉町

現地拠点：双葉郡大熊町 大熊町連携大学等研究・支援センター内大阪大学福島拠点

事業のポイント

大阪大学を中心とした全国の大学の文系理系、学年、国籍の枠にとらわれない多様な背景を持った学生が浜通り地区を訪れる。そこでは、自らの手を動かし環境放射線を測定することで福島の実情を科学的根拠と自身の体験に基づいて理解し、さらに地元の方との意見交換によって震災時の様子やそこからの復興の過程を知り、放射線による直接的な影響から派生した人文社会的問題を認識する。また、学生間の議論の中から復興に対して自分たちが出来ることを考え見つける。教員も含めて、教え・教わりながら互いに切磋琢磨することによって、キャンパスの中だけで行われる従来型の学びでは実現できなかった分野横断型の総合的な学びを構築しており、すでに9年間の実績がある。

人材育成目標

複合的要因をもつ大規模災害などから復興を目指すためには、科学的に分析し理解するだけでは十分ではない。複雑に絡み合う要因を紐解く想像力と、新しい答えや考え方を生み出す創造力を働かせることが重要である。我々の事業における目標とは「豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる」人材の育成である。

2025年度の活動内容

- ・大阪大学福島拠点を活用し研修会の円滑運営と年間を通じた地域貢献活動を支援。
- ・IPC、SISC等海外からの学生の参加により国際性を養成。IAEAとの共同開催を基盤に海外機関との連携を強化し学術交流を促進。
- ・「科学班」と「観光班」を立ち上げ、地域課題を解決するために学際的なアプローチを推進。他分野への展開など地域貢献活動の拡充を目指す。
- ・2023年度からの社会技術研修プログラムを継続し学生の課題解決能力をさらに強化。
- ・シンポジウムを開催し学生発表と自治体関係者との議論を通じて地域連携を深める。
- ・過去の取組を整理し、記録資料として作成・公開し、関係者と共有する。

取り組みによって得られる成果

研修会は参加学生にとって自身の将来を考える一つのきっかけとなっている。研修会での学びだけでなく大阪大学福島拠点での活動を通じ、将来的に福島の発展的復興に資する人材を涵養していく事になる。

